

俵俗割

中



門 4 曾 4
775
267

大和俗訓 卷之三

心術上

心々才の主として美事の本根也 彼は心正しければ才は

まろまろと家としての人とおまあかすたとて竹木の根

根をさして枝葉さういふ家の主は徳なれば家おさまらさ

るゆゑに心正しくまろたまらつる根ありて悪と強ふ事

真実なり成りてまろの内に善とありし海はく悪と強ふ

事まろなりとせんしに悪人の境界をゆめれを及んとす

くまろなりとせんしに善人の道に成りてくまろなり

てまろは其意を識るまろなりとせんしに善と強ふ事

海河し心成りてくまろなりとせんしに心よ

くまろなりとせんしに善人の道に成りてくまろなり



Edo 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111

ときりの道れん分へん惟格へん人心道心の言をわら
てゆへいあ毒へんまうの惟へんまてふ人心道心とまうまれ
すふ道心とまうして人のあうさ方にほまふひふ窮な
れして人のまうさるんう出く人心道心の下をまうさ
先執厥中申し人のなれま月日體七情の業皆過不及の
あまうたれまもた理の五極まう目あくまうまう惟
格惟一ふれまの身の業皆さふ及のあまうたれま
不しれ中に叶り飲食まうまう酒食まうのむん心
り酒食まうまう酒食まう酒食まう酒食まう酒食ま
まうまう威儀と失ふ脾胃まうまうまうまうまう
まう酒食まうまう酒の害にまう人事まうまうま
まうまう人心まうまうまうまうまうまうまう

も道心惟格なりとあまう酒食まうまう酒をたれま心すま
流し忽体合まうまうまうまうまうまうまうまう
人欲まうまうまうまうのまうまう道心のつまうま
二とまうまうまうまうまう惟格なりすま酒食のま
損あり節まうまう益ありのままま専一ま
て道心とまうまう人のまうまうまうまうまうま
まうまうまうまうまうまうまうまうまうま
惟先道心惟格へん人心道心このまのまあり惟格惟へん心
まの道心とまうまうまう先執厥中まうまうま
理の及理へん惟格惟へのままま過不及の過りま
まうまうまうまうまうまうまうまうまうま
まうまうのまうまう及れま及れま及れま及れま
及れま及れま及れま及れま及れま及れま及れま

弟世に孝れ教の根柢之王より以下庶人より下まで皆
ついでにその定用有なき本然なり

天地の人となりれども先づ本然なり食物衣服居宅定
物ありて人の力と善と徳と生じて以て之を分ち給ふ人
もとて用ひ教を以て善と天下の人たゞもひきても心
其れなくしてけり人外其善のゆゑも海内も皆
可なり言活し由りて亦兼物と生じて病と極ふ凡そ
ありて用ひ給ふ物の力と善と徳と兼て多き半は善と徳と
厚し其れ皆て地の人を厚くして給ふ處天地の禽獸と草木
無人と兼ひて皆百なり一も皆其の禽獸人の教れ
合はるる草木はきりて用ひ給ふ人の善物も皆
是れて地の厚くして以て兼て半なり一も皆て地の厚

と厚くして是れ人なり平生一の善の厚くして
て地りは人なり其れ皆て地の厚くして
天地の厚くして人の徳を以て天地の厚
と給はけて地の物成はりて地の厚くして
の善と兼て天地に不孝なりて人道と失つて人道
なり一昔年愚にて天地の厚くして兼て
らりて其れも皆て地の厚くして
それらなり一も皆て天地の厚くして兼て
それを以て皆て人の徳なり其れも皆て
天の威とありて其れも皆て人の徳なり
と兼て其れも皆て人の徳なり

帝小人の内然なり一善の私教私念ありて早く去りて私教ハ

あはれむはやくんをうまにまひりしうたどうしおし育
ふをやくしきしうんふふれんとうきく帝に人をたたく
あはれむはやくんをうまに別の念あふく人をたすけすふ
をばさしすしふの口さかかぬ故ふ天下の人王ふりて下
庶人のうり遠日ゆふききありきとゆふたよ位ゆの時
あはれむはやくんをうまに是天よはふりてて極とつし
しうなり

仁者人取もす人取の厚をわく人取もせれそひよふを
をとりも人取の厚をとりし私也仁者私れ私と愛ふ
人取もく人取もくしうがゆふ事ふふふと厚れ私と愛ふ
人取もく人取もくしうがゆふ事ふふふと厚れ私と愛ふ
公ふ私ふも好く仁者れ私れ私れもあつてゆふのこし

字者いまは仁はくは私とめく仁とゆふし一昔んをゆ
ふのんとわくしうた人のふも私れゆふかりんふのそ半ふ
ふ好くしうゆふるふふ好くゆふを私にふふ厚しゆふと
をし先私人取ゆふしゆふ好半ふふふはしゆふとあふ
私ゆふ事ふふふとふふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
人ふ其ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
云思なり思仁はしゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
はゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
仁思のゆふゆふ思の一字ふ人のゆふゆふゆふゆふゆふ
ゆふゆふゆふゆふ

人ふゆふ者天地のふふゆふ仁也ゆふゆふゆふゆふゆふ
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

此を以て物成をせんとすべし不仁にして只その力を以て
人をもせんとす人の心あるに會然と何ぞとすんや不仁は
人心と云ふ其府の才能は其年ハ其年と云ふん

家身は其府の才能は其年ハ其年と云ふん
らん人ふらして四時と好く人の徳と云く我過は其徳を
ひくき事移りて我を以て徳と云く古人謙と云く天下の
と守謙の徳は其府の才能は其年ハ其年と云ふん
と云はこれ自己にして人よ求むる徳は其徳と云く其年
あり世なる古人徳と云く天下の徳は其徳と云く其年
の年身は其府の才能は其年ハ其年と云ふん
敬を以て以て別は其徳と云く其年ハ其年と云ふん
は其徳と云く其年ハ其年と云ふん

敬ありて其徳と云く其年ハ其年と云ふん
まり其徳と云く其年ハ其年と云ふん
身修り敬ありて其徳と云く其年ハ其年と云ふん
と云はこれ自己にして人よ求むる徳は其徳と云く其年
あり世なる古人徳と云く天下の徳は其徳と云く其年
の年身は其府の才能は其年ハ其年と云ふん
敬を以て以て別は其徳と云く其年ハ其年と云ふん
は其徳と云く其年ハ其年と云ふん

学問の要也これをも致遠に言ふ人をくちくちく凡人の致遠は
私して其方の過し悪しと言ふれば其方の過し悪しを言ふ
も言ふのうとひひあはれ致遠の要し過と知らるる甚だ
可なりは河よりもうとふたを本行らるるや身はくうこの
諫と聞くと致遠と知す

何事とすればあはれ本と慎す一好く辱まれば道の志とこれ
致と知しやし陸ははれを致遠をこれと云ふ好し本は
の基也其大なり瓜あきくとして酒食く是怒と致利と瓜
好くを瓜とれし徳瓜頂瓜頂を為瓜先其條のひとあはれ
も示さるる凡好半ハ多き瓜つじをく瓜れもすはく如く
好し又まきひくたり古人の言ふ好半と云ふく其の言
と知す一好半慎す

方孝孺の樂味既而憂繼之者人之欲也一好半一あはれ
酒食好名ととやまなりたりとして其樂つまはれいふも
其つらひうまひ忽ち来く酒食やうれは飲ふそふら言
人然らざる飲とすく好くするのたまは然とすく好し本
十をよひうまひれ只六七を或七八をよむし早やし一十を
よれ必しよむ出えて後物とれも益れ一古語酒は微
酔小飲は花は中宗少君とくは好くくあす一昔清文も
一時好らるる佳半もれは必しれまきくひとたり一好
民は司らるる民の父母とれは民とあはれむと云ふ一民の
と云く心して民の好し半とあはれほし一民の好し半を
まきくくはと云ふ父母の子と云ふあはれ民の父母と云
の上小三人の民とや一好半と云ふと云ふ

て原随ひ民とて多し由りし人我人の樂ときあはれ
くの人とて多し由り天道の正ふそむりて原随ひ人
く人されは公もも同し人我ひ民の樂しき若し
を同し然らんとく民の安んじしりたり民の憂
若しと思ひしるも憐しし不に人我ひ民と憐し
民は是れ公なりとて河ふとて民と憐しんも不に
人のし細なりとて民は公なり天はあり上あり人
て民と是れ公も亦必感悦しとて民と憐しんも
不に人我ひ民と憐しし不に人我ひ民と憐し
は感悦の理なりとて民も亦必感悦しとて民と
とて人我ひ民と憐しし不に人我ひ民と憐し
上は公也人我ひ民と憐し

民の目し人我ひ人のまのしと好しし人我ひ民と
是の樂し天下の人我ひ民と好しし人我ひ民と
平に人我ひ民と好しし人我ひ民と好しし人我ひ
人の憂苦しむるも人我ひ民と好しし人我ひ民と
かゝるも人我ひ民と好しし人我ひ民と好しし人
然らんとて人我ひ民と好しし人我ひ民と好しし
とて人我ひ民と好しし人我ひ民と好しし人我ひ
老く子なりとて人我ひ民と好しし人我ひ民と好
人のめくも人我ひ民と好しし人我ひ民と好しし
情し人我ひ民と好しし人我ひ民と好しし人我ひ
く人我ひ民と好しし人我ひ民と好しし人我ひ民
人と好しし人我ひ民と好しし人我ひ民と好しし

の憂若とを救ひ人の為とて忠告し一語もすくなく
位ひたりん祇に救ありくなくす力ありん其窮と救ひ
裸窮孤独のたよりぬく若し老る人成を限は極ひく憐し
たすくく一賊と折むにん次小禽無蟲魚草木に以て
度く憐すく一也皆天地の肉とて交足方の列はありん
くも同くして地の肉を生ずる物とてりく一氣の同類
の身ひとてみくくをくく人小坊あり禽獸を
は除くく一也皆仁とゆふまなり下にありん也仁正の事
法人の神ひなりん事なりん力に及しん其力も
くく下より上も上も仁徳のくたありん其力も
悲ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく仁徳を
也しきん人成用ひく仁徳を也しきん人成用ひく

うをすくひくして地ははるたもな道なり

法徳と人徳とひくく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
仁徳と人徳とひくく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
くく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
ひ道徳と人徳とひくく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
ゆく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
す人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく
奥をくく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく人成用ひく

陸徳久陸徳久今もこれとも天はよくあふれし後志家身
 のふらしてたり子孫の無業とゆふ道理あり故小福と求む
 に色よきまらねしつれへてその業よきといへ悪よきまら
 ぬ理古今和漢的自也といへも凡人をいひて吾を
 こゝまらぬ思ひのひしむりも言ひていへ水の紋の糸
 こまらぬ思ひのひしむりも言ひていへ水の紋の糸
 せむとくをきむと今の中のみあて考ふと善とゆひ
 て益ありといふれし人といふれしひて益ありといふ
 これとも君子の心を福といひてめんあふ陸徳といふもあれ
 陸徳といふれし水の糸と福其申あり

能後承の事と書くや公之見の明と云是を世の云ふ事なり
 之れを承の事と書くは先之の明なりて厚もこれを過る

此物より思ふことも考ふるも思ふ事と世に思ふ事あり
 好むすれも思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり
 事好む事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり
 我々の怨む事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり
 一より大なる思ふ事あり一より大なる思ふ事あり一より大なる思ふ事あり
 思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり
 凡平生の心法を志実す一も偽りあり一も中庸は誠天之
 道也誠は者人之道也一も誠は天の心也一も陸陽の心也
 一も日月のめぐり春夏秋冬の染はく一も今か今か竹木春
 生し夏長し秋はれり冬もさすて年といふりもさすも
 皆て天下の染なり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり
 一も思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり思ふ事あり

たり是誠之ハ人之道なり孔子も主忠信とありぬる故に
謙と云く人の心のまことなり是忠信を即人の徳なり徳
といふは徳と忠信とのまじりたるものなり徳といふは忠信を
事とし徳と云くする信あり徳と云くする信あり忠信を
人の徳とありぬる謙と云くする徳と云くするものなり
ものなりあり程子も人徳は忠信より謙なりこれと物
ありとあり君父よりするは謙をけり忠孝ありぬるもの
事謙れぬるものなり君父よりするは謙をけり忠孝ありぬるもの
にあはれはありぬるものなり謙なり忠孝ありぬるものなり
し名利の事ありせぬとて誠と云くするものなり忠誠の善なり
言と云くするものなり妻妻ありぬるものなり謙の善なり
ん心の益のそこなりがやくものなり謙の善なり徳なり

徳と云くするものなり謙と云くするものなり忠誠の善なり
人なり忠信も有るなりありぬるものなり謙の善なり
と云くするものなり謙と云くするものなり謙の善なり
王荆公なり徳なり謙と云くするものなり謙の善なり
ゆかりともはありぬるものなり謙の善なり
いんや君子の徳を純一とて徳なり謙なり謙の善なり
念ひぬるものなり謙と云くするものなり謙の善なり
君子の徳ありぬるものなり謙と云くするものなり謙の善なり
ゆかりともはありぬるものなり謙の善なり
用る其方不同しこれにきくもの本には海と云くするものなり
徳なり謙なりありぬるものなり謙の善なり
これと云くするものなり謙の善なり

うさく鬼作と感せし人の心を知く

作を人の一念の不吉し必天に通ずる程者天は高きなれど心は
にきくこころとてとあさむくく人の心を知る人こそあさむ
し終は其満り何れも因は縁ありて卵に殻をとり下人を
何むくく人の心死して天を欺き人を欺き共れん故欺よ
たり人よ不吉なりしをくくしとけりも色自欺也我
ん欺く次おそく天と人共んと皆欺くん只一をちよ
海ありて人の心死して君子の心して常はまき天白日のやと
少人の心を常に法暗してくくくく

易小懲忿窒怒

易小懲忿窒怒と云く念こころ欲をいりておそく怒湯
小属く火の物也くくくくくくくくくくくくくくく
我々の法とそころ半喜くくくくくくくくくくくく知

平して後程の是兆と云くくくくくくくくくくくく
怒時と出す綱も必ひ本ありくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
平くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
きくく其之本理もあくくくくく其ん定那いんや怒てんを初
せは其くくくくくくくくくく怒とくく敷実とじくくくく
あくく名利酒合好色或淫樂器物酒宴佚遊と好むをれ
我れ私に及ん皆怒く怒は物くくくく怒んおくくく早く其
怒はたやめぬすくく怒さんよなりぬとくく迷ひく怒よ
くくくく怒のくくくくくくくくくく物けし力と用半す
くくくくくくくく怒は後属くくくくく水の人とあくく

すうとくたもせす一存を百の悪多る悪く怒り怒りせむ
七情の内二の老害多我力とてこゝろひんをこゝろふたをうへ
又怒と怒との二をまなすの道よ甚害あり

七情を思入信をれらるく寸刻こそ及なくまた狂なる中
けうこそ方む害多し不及し又理小合人々情じて成者
ふてそれと我々んよあうとく事子後棄るはひひんす
にきしこ一ゆくあく思とほくえんたうあうも
あん思私人の甚しき世もに若れく其人れ思ふ
あん思すれ其人必うて道よをじくゆへつて其の
端より又な端端より怒りて人怒る人の不吉とゆへ
のたけり怒りまき怒り或怒りた本にも怒りて
人こそまひ恨らん瓜とてあふくじ本よぬれ其の者あり

と知すて用ひすふのあまうとと奈之れてせえとれ
しそ人々をさむく七情のさくも又情じすと何れ
ゆがふ不に思むる善なり哀しむると哀しゆれ
ことものまうひひん情かしく一七情七情
のさな也七情がれもさふ及くして禮義小くゆへ
是れ余の發年情止て禮義とてさるなり天下のたげの道
ふ及れ中よしくさ至善ありて是れ余のあふ之會する
一本とていひてさふ及くさくして力成る一
是中なり是道のありさこれ脾胃とやあう方なれ
男の者さるも皆中にある

人の血氣あうこれ痛す人の心あうこれ愚之は古語の心
たうと一本とあうてんと用ひ思案さるとは運動する也

世に之をいひてまゝに思ふゆゑに季にすたはら
あつたすゝの半はひすゝと名事とあつた
まゝに決まらぬ思ふまゝにすゝとすゝと
早く決まらぬ思ふまゝにすゝとすゝと

人の世に不義を待たぬは恨み人のあやゆらな
れは家々のあつたは是少人の常情にれはまじうたは
そいつらうらうらと休む其色に争はるや只我れは
ありまゝに不義を待たぬは恨み人を登るは
我れは恨み人のあつたは

尚書曰必有忍其乃有濟有容德乃大志乃大也
忍と云ふ事は忍む事也志乃大也志忍す
れは忍む事は忍む事也志乃大也志忍す
忍む事は忍む事也志乃大也志忍す

志忍す事は忍む事也志忍す事は忍む事也
人よ事ひく人我のる和順に人せしむる志忍す事
忍む事は忍む事也志忍す事は忍む事也
有容人の心廣く人の言はるる用ひ人の過あらはゆるを
之容半はれ其徳の器大なり志忍す事は忍む事也
志忍す事は忍む事也志忍す事は忍む事也
任鳥死す事は忍む事也志忍す事は忍む事也
忍む事は忍む事也志忍す事は忍む事也
志忍す事は忍む事也志忍す事は忍む事也
志忍す事は忍む事也志忍す事は忍む事也

志忍す事は忍む事也志忍す事は忍む事也

るひやあり也朱子の詩傳にも世訪る人情とよくをりて
卷終ふんせしく初めたり人信本度と云て其れんふけ
いふ本はれかゝるくんとていふてんとていふんせ
こく世はれぬ人なり

人然とていふまゝも此書にみえたりとていふ人
あれはた過を飛して清めりても我徳は害なりあな
にさあつたりとていふり其とより其れとていふ
いんやとていふんすくものあやまちに改れぬ我事とてい
ふる孔子曰丘幸ありとて過はれぬ人必知て我過と人
言ふれりとていふん我事なりとていふ人聖人の言ふ
こと

ちく記はの俗語も用ひては病とせよとて事毎ふに記す

わたりもほもの小本は何のうとていふんとていふん
けりてをれりあやまちのこゝめりひのふなり其れ
のあやまちひの必事なりとていふん事とをれりて
けりていふなりとていふん小本とていふんは
りていふなりとていふん武王の治も勿言何事其編
物望とのこまひなりとていふん

ひ下らん又若少のふふすらんは是後佳なり玉君國のく若ふ
善とひん又人ふさう其非とのそ先し仁心ひすく若
お弟をれらうと月ひく善とひん其年公是行くと
其心を非なり中一むじ一其の道よあつれとれり
不孝の人義理とてはまふ方のふあつれ又利害損付とも
られとて各々のまきりひなる年とてふひ年とれと
力とえんとひふうて力をあはれ一家ははめうたうか
れひ一とて各々の悪とやえれとて天のせめとてうとの也
我ら力とれえとて各々のぬめひく人とてうめて力ぬ
きの一とて各々の害とてうまるとてふ
道と主とせられ昔人のいり極ひ好まじふゆを昔私欲り
考へん利欲取わくやうとて或人のひふ事ふはゆひく

要の考へて各々の親類朋友に私一或人の清化とて
考へ私する所ふなるひとてうり外一とて
道をうらな何とてうり一とて理也とてうらな
只各々の私とて主とてうり一とて或書とてうら私多ふ
乃と主とせれとて欲とてうらゆとて一とて
家の同妻子各々の私とてはとてうら私とてうらなとて
先いり各々の人は交ふに世とて人の非ぬゆとて一とて衣食
家后各物取用とて一とてに然る年とてうらなとて
ひとて常に不足のし何とて一とてうら私とて一とて徳あり
家のつくかと物とて一とてえんとてうら衣のそとてかくし其意
と古今とて
世を海たり各々の母たり志を執りかちとて一とてれとてうら

たゆみぬはなまゝとあつらふるふらふらと志のりらや
くせあゝく志とてか力とろくは花のうやうあゝくし
て亦はうつらぬこと

紙の身に半くつらふと其れが美賤うても又その一むらと
うゝとれと富貴をうゝとともたのう

昔より人の言を忠を世人の養うるは人のふらふと
其れを人の只は理と法とて紙の身にたれふれ
そしてそらうとも世をうゝ人の家ひひたれりそ
じふ世をう
と養うとも信ふるは人のふらふと其れを人のふらふと
こそ君子とふらふは珠と養うるをうゝとてうゝと
さくともとてかきれらるる

昔より人の言を忠を世人の養うるは人のふらふと
其れを人の只は理と法とて紙の身にたれふれ
そしてそらうとも世をうゝ人の家ひひたれりそ
じふ世をう
と養うとも信ふるは人のふらふと其れを人のふらふと
こそ君子とふらふは珠と養うるをうゝとてうゝと
さくともとてかきれらるる

昔より人の言を忠を世人の養うるは人のふらふと
其れを人の只は理と法とて紙の身にたれふれ
そしてそらうとも世をうゝ人の家ひひたれりそ
じふ世をう
と養うとも信ふるは人のふらふと其れを人のふらふと
こそ君子とふらふは珠と養うるをうゝとてうゝと
さくともとてかきれらるる

心も草も天理不才として人欲とすうしてはますゆていふ是と五者
ま君子の人半歩かたきくはるべし—あ十その人欲あるは
くくそきとふ公室白のあふはくく香臭の一番は何うや
十その白き物よりその黒き物よりこれとまきくはるべし
香くくはるべしはくく其と加れはるべしはるべしはるべし
衣なりあるはるべしはくくはるべしはるべしはるべしはるべし
已後物いれりするは質朴といはるべし—華弄としてその
此亦たといれりはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
をく—真実なるはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
してはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
我ら不孝しくしてはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
花はあふてはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし

あふ人々のひきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
さくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
れは是六つの原をたつてはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
抑そ言のしるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
少なるはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
可くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
人の我れはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
而して思ふ人の不れりてはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
はるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
紙扇をはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし
くはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべしはるべし

理行のうらふ小あつられんを他欲とせぬはすすくぬ也
天道六春の生一其の長一秋の收し一時を皆奉りてをこそ生
氣のかきこつまらぬく少くをこそれ一夜ぬくはつりし時
筆にしを足すむらや一冬の氣用尽する節も春夜生の
氣をきき氣とち一くさく陽氣かきまりかたれ春夜の陽
氣きんちかたあふた雷なりて陽氣うたなり道は春の
後の氣をきく秋穀のころをもく一人をたすははつれは手
るらまへくと明日氣力より一人の静りおしおきく初
めの平とびく一人きつかり初るし多ハつは初るよりこれ
くはつりあやまらさる

劉行簡曰天下の半一人小余の上天宮に余の中大臣も余唯一
言あり曰この云とハ私に比と云私と云余を尊し私に比に

とどのそ人のなぬさう一言成る人成と成るも也云と
人成のなを成く私一人をひと同く利すると云也云と
私を成るは成くこれひと人に成るは余一人を成る
人の成るありありありありありありありありありあり
ふつりしむりもれもれもれもれもれもれもれもれもれ
あり又一言して上て成るをむじ一人小余の中大臣も余
まらあり私の一也也たひと下よまゆららの言事成り
も余小私ありもれのたあはれ私と成りて毎人一立利と
ゆく其れもよもこのつり人のつりみ少くもに成りて
もるなりこれ成る成るは遠く謀事をなれもきき成る志
らまのなりは成りて我々の扱ひを言ん私と成りて御承
とゆふもたせんといふてはつりもあひも成るなりは

位かくしてまゝとく極かくして富り其未だは極くは
いんとおれ肉よ赤く有く亦小神人なるれはなり
我も愚と云ふは其のあやまりと云ふれとて自覚して自知する
昔も龍虎の伝はれきと云ふれとて方々不なるは皆人の心
らまゝの人と云ふを海もやして人の胸中も若愚の心と云ふれ
れを有り我も人中にある吾も我の半はれは知られりて
以つて人ごまらうもやしていんをわれも教も私とて其意
しれと云ふは其の故も古語は自知人の謂知自知謂明人を
ふは海と云ふは其の教も教も私と云ふれとて人ごまら
れと明と云ふは其の教も私と云ふれとて人ごまら
あはれと云ふは其の故も人ごまらに自満して人ごまら
者を其んごまられりて其の故も人ごまら

言はせり信するは其の本ありて其の言も其の言も其の言も
吾言と云ふは其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も
よく其言の及ばざるも其の言も其の言も其の言も其の言も
言と云ふは其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も
つらなれは其言も其の言も其の言も其の言も其の言も
我も其言も其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も
てつらなるのちも其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も
これと其言も其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も
其言も其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も
のため其言も其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も
人の言も其言も其の言も其の言も其の言も其の言も其の言も

みちの東のさつる瓜をえくきしうる夏瓜をむしりてはす
けり人愈々さつるよれ人むはめく願しむる
ふゆる日とてしゆれ人ははめてするくたれとて其
ふぶあすて一昔西門豹とて一人性急なり常小章を
あひていまめとす章はりうなるもの董安宇とて
人を性緩常小弓の弦とていしやめとす性急なるもの
也後よりあもさぬぬしりふ事あふんか偏性なりたを
う氣質とて愛するもや学問の氣質はあもさぬぬとて
つと要しん是阿やまうとてさくれくするたかくのゆく
これ学問の益れ

事急して身もさるもんせりしきさうあつてんせ
ゆりさうとれを和ふと失ひくぬれしりのあつてん

思案ははぬひさあつてはさう多

君子とてしりん常小すくれく已とてしりんたのふ多一人
とていふ少くじん常小すくれく人とゆり甚急なりん常小
多一人を母とてははれ君子のんを常小平うとて
ふ多一人のん常にあつてはさう憂多

弟の本はりて案て後のあやまりぬ物なりん本とは
かりて思案れくして怒と怒とけりこれたのつさるひ
と智者のささるあつてん本は案をれとてさくくは
むあやまりゆり後悔ありてささるものゆりんさうと
案とて洋小はりて一お断せしはあやまりなる人てさ
ふさくくさつるこれと案をくしてははれさうゆり悔あり
怒と怒とふとてさのる本の甚急なりて其たのゆり

人の過とて不義の瓜事一々あつてむかひの必人
のいみじかりとあり人とうらたきて一旦の性す
とも其人の性悪なりと極て入りのつらみとゆる怒成
理をく海の貴成より方なるよす性と求むたる
や下級を對して世に成る人なり
怒すくればと我れ是れ本と云ふりのふ限とやせん
そく糸織りとも又糸一むすのむ老常にあはる
怒をく足本と云ふるの富貴なりともか限と不
そくあらあはれあはるる老をきの一む本と云ふれ
介と来くやほにはわゝ災しかり事又多し

抱朴子の言に玄蟬潔飢不羨螭狼稼飽と云ふ云々
せみはまじらぬと飲つるく腹をちれと螭狼の墨

ととくふて常小他者なはくやせん也然し廉潔に云て
賊人の不義一と富貴なる海はく不義の富貴
むじかぬ世なつてふ人をむじかして富と云ふむじか
あぬ其徳もつて富貴なるとは記ありとくふて云ふ
弟の本にあり中ありと云ふは海を云ふ是も中と云ふ
及なくともたかともと云ふ是も是のたかしく時湯水との
うんはむむひさるは中ありはなるふのくふ中と云ふ
るは不を云ふ一むじか中れこれと吾々の凡弟の
ささ友はくもたかむは中なり是即道のある處也過さ
りてはたかもむは道は各半なりともたかふれ
我れに才何しても何なるも才小なれば必あまう其上人は
腹をい小才者とも不賢の云とあまねくも海は歴代の史

いんごれめく 益れ下家とてんあうりあはれお
流ふしてさう 教其河たといゆめゆらう 思ふせあ
てとほととふときくすまふい家らの和宗と厚うあう
らみとら言く教也とてきくかされも我のゆにう言よ
きくもさるれいんごめあうりあはれあはれとす
いふあうりあはれ半は暫時とてさうさうさうさうさうさう
己或半にえさうて 己ま化或半小おれく 己ふ河いんあはれら
己ふ言くと 癡速くく己ふさうゆあやまらさくさ

徐孝節とて人知さうり相とて流す半とて海め蟻のあつまり居ら
處とてさうさうえのいおそれうたてたてあうり 其ん善行
とてさう 世とて行ひいあめくえ 毎之背とて志し人倫をたじ
次小善おが及んてし 仁志の及廣くゆらうて 吾んを何ひ

流ひのま帝にかくのめくすて 夫いさうりと好教事とてさむ
を大のれんよなり 天の相とありれ 流ふ家はさうをそ人の
心とする安昂にさう不にの人とめくみ相と憐すんあして
殺す半とてあむがのさく不にめく 他の方さうとてさも
天乃小肯人乃さくさく 己ん小善う次

利ハ天地より生して天下の人ある者ハ皆ハ流ふ理なれして下の子
物也然人の私よのたまふ人ときに同一く利は得れん人々若
其亦とゆく 害れゆめに私して 然人利とゆんとすれし争
あふくさうく 己方の害く 利義とゆつて 自あり利ハ真
の利之を並くさむさるり来むり 利まの利ハあふん必者の
禍とあふ先利と求むりさう 非す害と求らなり

一指月とあはれし 青山不見と 古語ふさういふのんハりとゆらうめ

物ありとも私欲のわらひありて人欲と物けりか
て万理と通るる所不瓜分りて是れは病よき人本
と云ふ私欲と云ふ欲をば心明なり本心日月諸欲
食之既と山谷の詩も云えり

いふより言の人の其要約速く半ふらまう次其意多し其
も其意人の語はまじい家より大なり其れと云人より
度も憐れむより人の心ありて是れ其心家と云はる
すも皆法と云くよりおとろ物く海をさす

世をとりよんてゆくまじりらんらんぞとまきまき心むと云は
おろその人言は漢書と云くもたまよまじく今も此書は
世のとりはれと云くまきし不知と云きふるもはれまむ
情むと云くはれと云くまきし半分を尚書小云えり

我身よりいふふらんらんせと云ふ本と云はゆりてま
りまきいんや人のまき昔と云くまきと云はれ其上人の固
かりき本其西のまき人のまきふりて本はまきまき
人の心ありてまきまき人の心もわらんも皆そのまき
はをば病なりたなり

樂と云ふ天と云くまき人と云くまき世もまきあなくして其まき
屋宇人のまきまきまきまきのまきまき

人倫小文了本と云ふ心平小本和してまきまき
まきまきのまきまきまきまきまきまきまき
本と云く故まきの心平と云く先和年と云く静なる
時をまきのまきまきまきまきまきまきまきまき
心平と云くまきまきまきまきまきまきまきまき

他は標板有梁柱をいふはさう時大凡ありてさふ
と也す一材木あり砂ひく後大凡たれもたれをいふ衆
智はゆりたれ人對するも心定す浮氣少くおちばこれ
言はれり理はゆりてん我場少く故我もよも本言とてん志
つるもこれいふにゆりてん欲もちやてん退閑し文字と
書もも字とふ其おちけりゆりてんゆり能言なり文
字おちるゆりてん思事なり其の半皆字の下のありあひて
静か時ありては理よありて

心氣和柔しとて人とてん然我も力に之を來已とせしれは若れり
て樂多し世も其意益あり常も是とてん然とておちて
あはれまことこれまはさういふは古語曰君子
を己小來小人むと小來じといふ

おちりともせり人我多ひなりとて用く其の半小海すとお
ひひの智と用ひは古語は自用とて小なりといふ我多ひなり
とてその人の智は用ひは世に其の半は一人をてさう
さういふさうの多れ小智といふは心ゆりてんそのひはさ
ふさうての智は用ひはさういふは其の半は一人をてさう
取らり人の智と金とて然る智とすは其の半は一人を
ゆりてん智ありたれ多きゆりてん十人の智あり百人は百人
の智あり若其人の長なりとてさういふは一人の智ありて
天下古今さういふゆりてん一人の智とてさういふ一人
の智は限ありて人の智はさういふは一人の智

天命は天のさすも人の受りてなり命は程令のさすもさういふ
の意は天よりさすも小天命といふ天命に常ありてさあり

善と爲る福あり悪と爲る福あり常なり吾人福あり悪
人亦福あり愛人の言凶禍福亦多福多矣徳善の幸亦不幸
皆天の命する也人の善事天命にあらず幸亦不幸或先
行て定まらば或時ふより不慮命くよりて偶然して福あり
ひまらふもあふれども命れればはるく来ればも命何
れはゆき一人の法とゆひて天^{天命}とまらば是を
つて福あり常の理ありても福ありはるく命の愛は
はるく決らん天命とまらば命にはせらばひなれまな
す一天命とまらば命の定りありて福の来りて福
の去りて幸とまらば利ありて害とまらば命の去りて
非^非はるくはるく思ふこと一故論語に不知命無
為君子也といふ

人の心平生言のなる時常小楽しむ多かれといふらひも亦ても
衆一はすたてしむあり人の業小あひくも人の血業つた人の
心一に定まらばあらずとも感ぜざる也

若事なり時楽はるれは故に幸して死にたりひありては憂き
みんと初し礼してより先常の時よりまらばてんときひ
と事とふくす一人の天若なり常に亦一は幸小
らなれくくればはるく
不意なりといひあひくすもやかくたれめて亦は失ふ
た人の心静小る事なれは其福とのかりし人なりといふ
ありはつまりせりありて人の心ありてはるくはるくはるく

衣服

衣服の身のおりくちなりふ射すれは先づゆせぬ古今も同じ
 の名目と信りぬるまら衣被次小言語次小言語とはおくと
 言ひと同一くおちる言ふとの半れ也衣服とははしめて
 月小お意きりふはと多し公用へお意せりふはしめて
 相應とふ年と位と時と處と似合ふは深色は極極に
 人上其年の不しよりし少くみて考へるなり人の目よき
 多くて一ツののりくちなりぬるも老るもきりぬるも
 し今も似合ふなり外年と位よりゆふふれをみよ
 やし大なりと太らんをちすく人の目よきもてちと
 あやしくとも下り深し此膝きりぬるも其身に似あれ

てじちふふおちりぬるののりぬるの衣きり今位に人
 もいやしくぬれぬ下敷のやし是と好む何の病を
 大なる衣服少くも人の心推すもの也位なくとも
 らおんする人下者もすく次凡人の目方なりお意な
 る一月小きりお意せりぬる帯もいしハ男女もちい
 りり今衣はひらくもくちぬる何の益ありやと

衣服の便素よびりすくぬれぬ世の法もすくぬれぬ
 亦海もきり今とはちぬれぬ何のちあはしきりぬれぬ
 百家も美素もこのくちの股多しとちかぬ亦甚質朴
 よきくちぬれぬ何のちあはしきりぬれぬ何の
 けちりえきりぬるの何也すくぬる女子の股もちぬれぬ
 下りぬお意に藝の脂食褥もすくぬる

身の手よりいんは月ひさのいんは味はひさく益れは俗念婢
の軍小考くまんとく衣服とせられし減去ふをいあらる何
乃益もなくともふは本なり

た傳は服の不衷力の災也とてりきる物のきくつすして

其身小似合ふる力のもくひひなりはきめ一書多き事しい

まじりて一國語日服心之文也人の好むと身にし必服する

服小衣服人の介小ゆりり多き文なり二一のりきる服きりる

心の内をそくまじりばくして多きひ用あり

衣服を帯に用ひくはもと製法深也あり時の好ふをくひ

てそのあま俗ふりりるん

言語

言心の聲こと古くその人の心の内よある事としによりて外よ

つ一云みえりに教むれば馬七遊びてまたりし河に其事も皆

はより出口と慎し過をくれし恥辱なくまきりるか一故小人

の力のつこくははにほくしむと一のほめと人言多むれ

口の過多く人よくすれ禍多きはくしそ多きいそ人殊よ

人とそくふい莫きの愚事なりしむめて人の非とふとく

易小尚んやをんて後くそくそ人よ物じんるり先我

ん取安く静く思案して言すく必おせ八言のあや

まちとえんすくれり

人は對して言派出来に本まよりてたれどひはくた定て回

よおくそくハ派あき言小除味ありて人感服して随ひ随

人を待しし解しきかしく人蒙教和順くしてそあれて

よめて其人のよ愛くそくしりそ身をうつて人の心を感きしむ

ろめうとれすてゝ其人のうみは深西あまきくひ
退きく後言すり聖人の誠也晋の世の崔洪とて六月
弟ふ人の過を諒みしとて其人とてうん故念れとま
をけりとも宋の劉貢父とて今亦かくのしくけり也
一言の過やも莫その禍くわく一平のあやまちもそそ其の憂
ふを慎むて一平はつてある人半ふより時よりておこ
うそゆいおと一言一平のあやまちふよりてそのおの
大なり禍となり半有一言一平も慎むんか首をうり

百語小病はより入福はより入徳とてはとてみ
つたにけり出されぬ災れは念を慎みたるにけり
され病や一病は災との出たる本へ天より降るよありは口
よりおろるとて人の口の出へ入徳とて

人のあはれは紙の中にして辨て果は出ぬとて
人こそわいんとておのの不にの甚き也其は殺りたおめて
もるも蓋れ一其人とてゆみん其害あり其そ一其而其實
小きるはとて人こそおのの甚きるありは況んは
人こそわいんとておのの甚きるありは況んは

人をそれいふまに我とて人こそわいんとて
一夫よむいひくははれとて其は甚き也一言りて
出れいふよりて入る我よ出る罪なきも其は車の物の
やとおそらき人こそわいんとて人こそわいんと
人こそわいんとて人こそわいんとて人こそわいんと
人こそわいんとて人こそわいんとて人こそわいんと
先不智なり人こそわいんとて人こそわいんと

我ら同僚同流の人とて、人々を驚かすは我々の志を
とすも、又不義を成さず、早捷の甚なり、是れ人の
可く、可く戒むべし。

人として、其人は對するを、いふ事、本は其人を、
何の害ある、いふ事、必ずしも、俗は、本は、
と、いふ事、確は、年、何、いふ事、人の、いふ事、
孟子、人の、不善、いふ事、の、意、いふ事、

言と、いふ事、も、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、
いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、
いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、
いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、

我ら、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、
我ら、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、

我ら、いふ事、いふ事、

我ら、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、
我ら、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、

昔、我ら、いふ事、いふ事、いふ事、
我ら、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、
我ら、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、

凡、我ら、いふ事、いふ事、いふ事、
又、我ら、いふ事、いふ事、いふ事、
俗、我ら、いふ事、いふ事、いふ事、
我ら、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、

我ら、いふ事、いふ事、いふ事、いふ事、

くうせとハ少々あくぢぢれ世ハけり幸なる判何々尽れたる人
こくしすくれく用ありゆとさき道徳わく小治なり
辭ハ簡要とさるふと古今の言ハ用の言ハ出さる者用
此本とよき一とさる

人の言と紙今計ハとあるあゆりして左と右をなんぞみて
怒恨しつる人あんの申す怒りむしむ怒りも心
より多きといふこと言と果出さるいりのさん時
やう果出さるふ言とくは悔育らんとやう者氣と平
みし怒恨とく後之と本ハいふ事すも本ハなる
酒不研る時とむまと慎ありとく酒あり後と成
ぬべ一人よぬと送し因怒り後又と言し一先
皆懐懐とさるなり言とくもちに文ありはあとの也

ふとすふ博博慎く怒のこりふかき

世俗の言とけり本とく多しとくは多しとくは多しとくは
志ハ本多しハ情けり神佛の奇特ハ俗人の言とけり
そつり多し一凡正法ハ奇怪外奇怪あり正法よある
奇怪ありとて考ふらん神佛と考ふらんと本とけり出
或いは本と侮るとこれ一考其れらるをさる
神佛の徳とけり本と不知鬼魅執程の考ふ奇怪れ
本とありとも多し本ありともはけり
其れ人をもけりをさるは依て侮ふや
けりて言とけり本と多しはけり正法よある
てけりはけり人の胡亂なり依て又人言れ
言と子の罪あり慎く人よ誤らる

の過とて一り先終ひしとや

おとそ人を多るのハ多うてかたはの能てし人の口は我々目きに
由せしとて一人の吾思とてすしとて此の由は参りしと
もかりしとて哀れしとては本月とては一即時ふとてか
を毀せしとてあやまりては悔あり我人とてあはれしとてさ
りくしとては本ありしとてあはれしとて又ありし人の
を毀りしとてあはれしとて一人の口は我人とては吾思は
しり
らた人の口は我人とてあはれしとて

面前より人を参りしとて論ありしとて一もいひしとて半ありしとて其人の對
て他人の對していひしとて一人の感もあはれしとて一面ありしとて
一すしとて退きしとてきしとて毀しとて

凡そ毀本あやまりては我人とて一人の口は我人とては吾思は

死し悔く我人とて毀れしと

人とて参毀本悔んでるふ及て一人の口は我人とては吾思は
少とて大とて小とて一虚りしとて実とてなすしとて亦た
き本とてむく人とて参りしとて一其の道ありしとて論て其人の私
すしとて参毀本ありしとて一すしとて一権をては物の権を
いしとてあはれしとて一毫もあはれしとて一きしとては吾思は
及て一人の口は我人とては吾思は
とてに不智也論語よ子貢曰君子一言以智とて一言以不智とて
言はしとて由せんありしとて一すしとて一其の道ありしとて論て其人の私
奪しとてゆりしとて不参りしとて小吾とてすしとて一其の道ありしとて論て其人の私
のすしとて一人の口は我人とては吾思は
若とてあはれしとて聖人の行也とて

おそく人といふに法ありきとひ昔子裁才と諱るも教をいひ
お言とあはれき悪口とあはれむらあはれおかしき人
らききあはれきみくふ小能きんらき其諫小省きききん
らきお人といふに平和とあはれ頂とあはれ
ていふをたしあつたのよき事とあはれ人の心とあはれ
いふてあはれいふれき諫とあはれ受用とあはれ是人といふに
おそく人といふに人の氣質よりして直諫諷諫の二乃法
ありきとあはれ其人心和れき義理なり人といふに直諫
すべしと諫とあはれ過とあはれつりて法はすくに法也
とあはれ此とあはれ孔子の法語の言
とのあはれ也亦氣質和順なり義理なり人といふに諷諫
すべしと諫とあはれ其人の心悪とあはれつりていふすも其

人のよき事とあはれ揚とあはれ人をいふとあはれ其人の心よきとあはれ
いふらとあはれ其の本の損なりとあはれ益ありとあはれ心せむと
或は本小よきて吾惡は失ふとあはれ如禁れあはれ人といふに
とあはれあはれ諫とあはれ孔子異子の言とのあはれ也
人といふに世に二なり其人の氣質よりして諫の法をいふ
直諫すべしとあはれ直小法とあはれ諫とあはれ其の年よき
らひとあはれ其の益なり明君賢者なりとあはれ直諫よ
いふとあはれ其の法なり諷諫すべしとあはれ諷諫とあはれ
て人といふに其の法なり是諫のよき事也諫の法とあはれ
とあはれいふとあはれ人といふに其の法なり諫とあはれ
いふとあはれ其の益なりとあはれ其の法なり諫とあはれ
いふとあはれ其の法なり諫とあはれ其の法なり諫とあはれ

大方の不幸也也やといふも小徳あり

易曰納約自牖^一曰知也夫小人之家の内より公をよ
しれと云入るるに之に之をきくすはよりいひきく自牖と
云も亦がのこゝいろあはるる人必りくもをけくも及理
并きく明らかりをけく式好むの徳あり其處よくえりけ
それ小中法きく云云公もよく心わききく人等々謙也のよ
事古もさきあり多し如くころり知と云んといふ忠臣
はくもいひきくもいひきく益れ

人の邊と諫ふ誅問あり何ごととてきたるにぞうやと問ふ
少く言きこれと云ふと解法なる人のけりき本と
えんく人の耳にけりき人よむ其あやきと云
いひきくもいひきく人のあき本と云くもいひきく

く争ひぬまむ人怒りてうけ判ひ是人と語り及ぬ温
厚とて理ありなる還りてく人と感きむもいひきく
せしむはるあり

徐偉長曰君子非其人則弗與之言を人にけり及ぬを教つ
をてしもく其にいききころりていむをくすてはる用ゆる
誅む人いひきくの人小言言とけきく益れ凡言
とすてもろくはにほきする其思れなり

のあきと語りけりやよりもちきく其のまきとていひきく
をす入れれりやとていひきくらば其本とれりやありて
人の小もくは感してす入るもさるるをれ
よあり時の言誅すくれ怒り時の言敬すくれをいひ怒ふ
と誅言治と慎くを怒の者ふとけりやありて

末の世は風俗よくなりてかやまの文と流るるもなりたり
 ちりてゆり多し政のよきと譽りて堯舜の世もさるる也
 とまの善と譽りて武侯のよきと譽りて或知仁勇の徳をか
 けりふとも武侯と譽りて孫吳よもおしりてさも孫と譽りてハ王
 義叔よも及なりと云詩文と譽りて李杜蘓黄小園一ツ下と云
 和歌ハ貴く那恒よもおしりて和文ハ紫式部清女納言と云
 の教多しと云しになれハ人の内小寺と云し風俗の河はよ
 しと云しゆり居るハと云年と云しハと云河は好し
 にはさしと云し正直の心と云しと云し

君子ハ人の善とあそく人の惡とかくし人の長ずり短とくし経
 りりてゆり居るハと云しと云し人の善あると云しと云し其
 ことあそく毀り人の才の長しと云しと云しと云しと云し

其才のたぬよりて短なりと云しと云しと云しと云し
 才のたぬよりて短なりと云しと云しと云しと云し

主君ハよみしん父母見夫の我よ抱ひ多しと云し其言ハゆる
 才のたぬよりて短なりと云しと云しと云しと云し
 ことり此と云しと云しと云しと云しと云し
 けれ共と云しと云しと云しと云しと云し
 なより下と云しと云しと云しと云しと云し
 いんや我よりよなりと云し

今もたれといふとて後家ありと云しと云し
 也今もたれといふとて後家ありと云しと云し

古語小流凡ハ流更コトより流言ハ知者小より言ハ
 今もたれといふとて後家ありと云しと云し

ちり流言の根分しごとくし實もあはれぬ新流なり愚者の
 色と薄くともゆへにわづらひし世にあらはれし世にあらはれし世に
 ちりやまた知者も不実なる本と行はれしと平小治政もはら
 しの其年ふしゆへにちりしは流言の知者よすまらぬ
 及び上流ゆへん人々もその人々もむらさきく人々あり
 次れれともうたにのん人々を答へてはるは世にあらはれ
 人に古人のいふしゆへにやじしは流言のみならず人に答
 へるるにゆへに平多し

大和俗訓卷之五終

